

Title	野生動物保護管理専門職の現場教育の可能性 : その4
Author(s)	中川, 元; 梶, 光一; 敷田, 麻実; 大泰司, 紀之; 田中, 俊次
Citation	第24回「野生生物と社会」学会大会プログラム・講演要旨集: 107-107
Issue Date	2018-11
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16900
Rights	Copyright (C) 2018 「野生生物と社会」学会. 中川元, 梶 光一, 敷田麻実, 大泰司紀之, 田中俊次, 第24回「野生生物と社会」学会大会プログラム・講演要旨集, 2018, p.107.
Description	

野生動物保護管理専門職の現場教育の可能性-その4

Possibilities of on-the-field training for wildlife professionals -Part-4

中川 元・梶 光一・敷田麻実・大泰司紀之・田中俊次

Hajime NAKAGAWA, Koichi KAJI, Asami SIKIDA, Noriyuki OHTAISHI, Shunji TANAKA

筆者らは本学会第19回、20回、23回大会において同内容の発表を行い、野生動物保護管理を担う人材養成が急務であり、教育フィールドは保護管理の現場が優れていることを示し、必要な教育課程と教育体制、教育機関の形態について論じた。筆者らが役員・専門委員として参画する知床自然大学院大学設立財団では、2016年度より人材養成に必要な教育カリキュラムの策定を目的とした実践事業「知床ネイチャーキャンパス」を開催している。

3年目の2018年は「地域産業と野生生物との共存」をテーマに9月19日から3日間、知床世界遺産地域とその周辺の陸域・海域の漁業現場・観光地・農業地を実習フィールドに、農漁業や観光業と野生動物との共生に関する問題を取り上げた。大学生・大学院生を主とした受講生は、講義・実習結果を踏まえた上で、「具体的な解決策の提案」をチームで作成、地元住民を交えた場で発表と質疑・意見交換を行った。以上の3年間の実践活動の結果をもとに、野生動物保護管理専門職養成に必要な教育プログラムの内容と手法、実習フィールドや指導者について考察し、具体的カリキュラム策定と、フィールドでの教育を重視した教育機関実現の可能性について考える。